

自然の多様性生かす

環境 考察

第5部「警告」⑤

気候変動の影響とみられる変化が自然界で起きている。生態学や植物学を専門とする国立環境研究所（茨城県）気候変動適応センターの西広淳副センター長（53）は「自然環境の変化は人間社会に影響をもたらす」と指摘。地球温暖化に対し、自然が持つ多様性を生かした適応策を考え、ま

仕組みや機能見直し重要

国立環境研究所 西広淳氏

ちづくりに反映させていく重要性を説く。
近年は生物や植物の北限が変わり、その地域でかつて見られなかったものが見られるようになった。一方でスズメやヒバリなど身近な生き物が減少傾向にあるという環境省などの報告もある。さまざまな原因が考えられるが「気候変動が生物多様性の損失の一因になっている」と西広氏。自然と人との関わりは複雑で文化や心の豊かさへの影響のように「社会が認識しにくい損失も多い」と話す。だが、生き物の働きによって農作物が育ったり、樹木が二酸化炭素を吸収したりす



にしひろ・じゅん
千葉県出身。筑波
大学大学院生物科学研
究科（当時）博士課程。
東京大学大学院助
教、東邦大准教授、国
立環境研究所気候変
動適応センター室長
などを経て2023
年4月から現職。

この連載は中島和哉が担
当しました。

るなど、人間の生活と自然は切り離せない。「人間に多様な恵みをもたらしてくれ。それを数値化する研究も進んできた」と述べる。西広氏が懸念するのが「温暖化対策の取り組みが、生物多様性を失う結果になる」とことだ。山を切り崩して太陽光パネルを設置すれば、そこにある生物多様性が失われ、斜面崩壊などのリスクになる。「再生可能エネルギーは必要だが、それによって何が失われるのか。自然からどんな恩恵を受けてきたのか。十分に議論し、地域が理解した上で取り組みを進めることが大事」と強調する。

■適応策 創造的に
変動する気候に対し、西
広氏は「自然を活用した対
策」を提案する。例えば、都
市の中心部に水路などを設
けることで涼しい風が通り
進むことも重要。温暖化が
進んでも安心して暮らせる
ことが魅力的なまちをつくる
大事な要素になる。一
人一人が考え方を見直し、
行動していくことが、より
暮らしやすい社会をつくら
せていくことになる。おわり

調べてわかったこと、考えたこと（330字程度）

記事から知り得たこと

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

温暖化を進めてはいけないと思いますが、どのように自然と共存していくべきかを考えることが大事なのですね。

